

# 49 灯のつどい（室内）

（料金 ローソク代：1人10円）

室内において中央燭台の炎を囲み行う「つどい」である。研修生は、第1部の「迎え火の式」と第3部の「送り火の式」には、これまでの自己を静かに見つめなおすとともに敬けんな雰囲気味わうことができる。第2部の「交歓のつどい」においては、楽しく仲間と交歓することにより、これまで以上に温かい友情を育むことができる。

## 1 ねらい

- (1) 静かな雰囲気の中で美しく燃える神秘的な灯(キャンドル)を囲み、自己内省と深い感動を与える。
- (2) 参加者の友情の輪を広げ、連帯感や協調性を養う。
- (3) 創意工夫することによって、楽しい「つどい」ができることを理解させる。

2 対象及び最大人数 全年齢対象 200人

3 所要時間 80分

4 準備 燭台(キャンドルスティック)・トーチ6本・キャンドル(燭台用、営火長用、親火用、子火用及び一般用)・非常灯カバー・灯り用カバー・各係用のことば(献詞や誓いのことば・呼びかけ文)・演出用具(マイク・アンプ・CD・CDプレーヤー・懐中電灯・ライター)・その他

## 5 指導の実際

### (1) 灯のつどいの基本的流れ

#### ① 灯のつどいの基本的な形と流れ

ア. 第1部「迎え火の式」・・・・・・火を迎える(厳粛に)

・ 灯のつどいの導入である。

・ 静かな雰囲気の中で灯を迎え、その灯をみんなに分火する儀式で、厳粛な雰囲気の中で思索・内省する場である。

イ. 第2部「交歓のつどい」・・・・・・交歓・交流(和やかに)

・ ゲーム、ダンス、歌などのレクリエーションや各団体ごとのスタントを通して仲間づくりや友情を深める。

ウ. 第3部「送り火の式」・・・・・・火を送る(なごりを惜しみつつ)

・ 灯のつどいの締めくくりである。

・ 送り火の式は、静かな雰囲気の中で、別れを惜しみ友情を確かめ合う儀式である。

第1部

迎え火の式

第3部

送り火の式

動

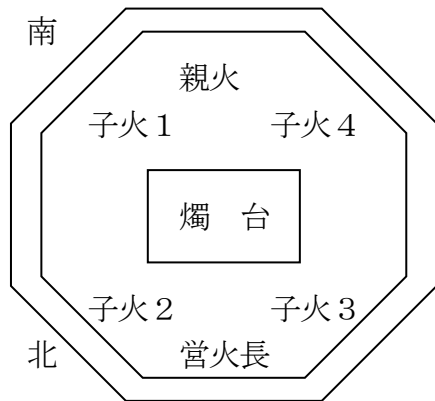
静

第2部

交歓のつどい

静

#### ② 灯のつどいの隊形



#### 入場順

親火－子火1－子火2－営火長－子火3－子火4

担当者及び司会や進行は、所定の位置に準備する。

## (2) 事前打合せ

事前に団体の代表・世話役の人と、係(人数・男女別役割等)や必要な用具、自分たちで準備すること(スタンプ等)について打合わせる。

スタンプは、事前に練習しておく。集合時間・場所・隊形についても打合せておく。

## (3) 係分担

- ① 営火長 (1人) 灯のつどいのまとめ役で参加者を代表して、迎え火、送り火のことばを述べる。原則として団体の引率責任者が行う。
- ② 司会進行 (1人) 灯のつどいの進行を担当する。原則として団体の引率者が行う。
- ③ 親火 (1人) 営火を持ち、営火長・子火を先導する。燭台の点火と、灯にささげることばを述べる。子火に呼びかけて分火する。
- ④ 子火 (4人) 親火の呼びかけに答えて、誓いのことばを述べる、点火、納火を行う。
- ⑤ 呼びかけ (1人) 灯のつどいの呼びかけを担当する。

## (4) 燭台の準備

- ① フロアーシートをプレイホールの中心に広げる。
  - ② 燭台及び係のトーチ用の太いローソクの先を点火しやすいように細く削る。
  - ③ 参加者全員に配布する小さなローソクをローソク立てに差し込む。この際、参加人数より1割程度余分に準備しておいたほうがよい。
- ※ 係のリハーサル時間中にレク係を使って準備する。

## (5) リハーサル

営火長・進行係・親火・子火の各係に事前にプレイホールでセレモニー(儀式)の説明をし、第1部迎え火の式、第3部送り火の式のリハーサルを行う。

(20分程度……団体の活動状況に合わせて行う。)

## (6) 事前指導

- ① 基本的流れと「静・動・静」を説明し、みんなで盛り上げていくように指導する。また、以下の点を守らせる。
    - ア 迎え火の式、送り火の式は、厳粛な雰囲気の中で行う。
    - イ 私語をつつしみ、ふざけない。
    - ウ ローソクの取り扱い方に気を付ける。
    - エ グループの出しものは、みんなで協力し、楽しく活動する。
    - オ 他のグループの演技には、温かい拍手を送る。
    - カ 思索、静思の時に気をつける。
- ☆ 自分を知るとは                      ☆ 自己をみつめるとは

☆ 考える、思索するとは ☆ 静に耐える、静を味わうとは

② 各係に割り当てられた人を紹介し激励する。

(7) 3部形式の内容

① 迎え火の式 (第1部)

項目	内容		備考
開式のことば	司会進行係が開式を宣言する。		
営火入場	入場順に従って入場する。(営火は親火が持参)		BGM
点火	営火長が点火を宣言し、親火は燭台頂上に点火する。		BGM
献詞	親火	灯にささげることばを述べる。	文例は別紙 BGM
	小火	親火の呼びかけに子火が誓いのことばを述べる。	文例は別紙 BGM
点火	係全員で燭台に点火する。		BGM
迎え火のことば	営火長は迎え火のことばを述べる。		文例は別紙 BGM
分火	全員起立。係全員で全ての仲間に分火する。		
呼びかけ	担当者は対象に応じた「呼びかけ」をする。		文例は別紙 BGM
納火	係のトーチ以外のローソクを消させる。		
係退場	営火長を先頭に退場する。		

② 交歓のつどい (第2部)

ゲーム、ダンス、歌などのレクリエーションをするとともに、各団体ごとにスタンツを出し合い、参加者全員のふれあいと楽しみの場とする。

③ 送り火の式 (第3部)

項目	内容	備考
開式のことば	司会進行係が開式を宣言する。	係の人は定位置につく。
送火のことば	営火長は送り火のことばを述べる。 納火を宣言する。	文例は別紙 BGM 係の全員で納火する。
呼びかけ	担当者が「呼びかけ」をする。	文例は別紙 BGM
納火	親火は燭台頂上の灯を納火する。	

(8) 留意点

- ① 灯のつどいは、みんなのために行われるものであるから、準備は全員で協力して行い、係等は分担して行う。
- ② 研修団体の目的や年齢等実態を踏まえて、内容や活動量など工夫して実施する。
- ③ 実施時間は、事前指導10分、第1部15分・第2部45分・第3部10分ぐらいの時間配分で行う。
- ④ 第1部と第3部は厳粛な雰囲気の中で行う。(消灯)
- ⑤ 第2部は、動の時間であり、親睦と友情のために明るく楽しいプログラムにし、各団体の出しもの(スタンツ)は3~5分程度が良い。(点灯)
- ⑥ 寒期に実施する場合は上着やジャージを着るなど重ね着をさせ、参加者の健康管理に配慮する。